



人口減少に歯止めを

五〇年後には人口が今の三分の二に

国立社会保障人口問題研究所によると、二〇一〇年の一億二千八百万人の人口が、その五十年後の二〇六〇年には八千六百四十七万人に、つまり、三分の二に減ると云う。

社会のインフラ維持も大変

そんなに人口が減ったら日本はどうなるのか？今の住宅の三分の一は空家。道路、鉄道、電気、ガス、水道など社会インフラを三分の二の人で維持しなければ・・・これは大変！と云う前に・・・

少子化の原因と対策

問題は「人口が減る」と騒ぐことでは無く、

原因と対策だ。「派遣」で賃金が低い。毎日残業ではデートもため。教育費は高い。これでは家庭を持ってない。

若い人が結婚し家庭を育てるように

低賃金の「派遣」を規制し正規雇用に切り替え、若者が安定した生活を営めるようにする事が必要。残業も例外に限り八時間の労働で生活できるようにすれば雇用も増える。

教育費を無償に

保育園を増強し、大々までの教育費を無償にすれば、教育費で悩むこともない。キューバではこれができている。キューバより遙かに経済力のある日本で出来ない筈はない。皆さんはどう思われますか？

横浜の港



今年の冬はこの外寒い。屋外でのスケッチをあきらめ、ランドマークタワーに上がった。展望台から東南東に横浜港が見える。手前から、赤煉瓦倉庫、象の鼻（Jの左右が反対になった形）、大栈橋、山下公園、氷川丸、山下埠頭がある。

「象の鼻」は一八六七年、つまり、明治維新の前年に作られた。沖に泊まった船から舳で荷を運び、ここで波を避けて、陸揚げをしたと云う。横浜港の原型だ。

大栈橋は一八九四年（明治二七年）に完成。二〇〇二年に改修され「くじらの背中」と云われるようになった。

春になれば芝生の緑が美しいが、この時期、どこも枯れて茶色の世界だった。